

科目No.	504	科目名	コミュニケーション学特論1		サブネーム	消費者運動の歴史と将来	
共催機関	主婦連合会	レベル	基礎	講義日時	火曜日 18:30~20:00	講義場所	主婦会館
科目概要	昭和20年代、焼け跡の中から日本の消費者運動がはじまった。消費者運動の歴史と運動によって制定された法律などを解説し、消費者の権利の重要性を説明する。一人ひとりの消費者が歴史を切り拓く主役であり、消費者権利の実現が私たちの暮らしを改善する契機となることをテーマ別に紹介する。						

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	消費者運動と主婦連合会の歴史	生活の場からの声を政治、行政、業界に反映させようと1961年に苦情窓口を全国35か所に開設。また消費者団体で初めて日用試験室を設置してさまざまなテストを行い、これを基に行政や業界に改善の要求や提案してきた経緯など、消費者運動と主婦連合会の歴史の概要を紹介する。	4月15日	主婦連合会 会議室 (JR四谷駅前 主婦会館内)	佐野真理子	主婦連合会
テーマ別の消費者運動	2	ジュース裁判とヤミカルテル灯油裁判	ジュース裁判は、「消費者の権利裁判」と位置づけ公正取引委員会と争った。「ヤミカルテル灯油裁判」では、損害賠償請求を行った。裁判までの状況と裁判でなにを得たかなどについて解説する。	4月22日		清水鳩子	主婦連合会
	3	薬害監視の市民運動から見えること	薬害エイズ裁判が和解によって終結してから10年が経過したが、その後も薬害は繰り返されている。そして今、製薬会社による「病気づくり」が世界的な規模で進行しているといわれる。薬をめぐる状況と薬害監視の市民運動について報告する。	5月13日		太田吉泰	薬害オンブズパースン 会議
	4	環境分野における市民参加～オース条約に学ぶ～	「環境問題は、それぞれのレベルで、関心のあるすべての市民が参加することにより最も適切に扱われる」とリオ宣言第10原則は述べている。市民参加の必要性、市民参加の進めかた等について、国連欧州経済委員会で採択されたオース条約を紹介し、市民参加型の環境問題の取組みについて紹介する。	5月20日		中下 裕子	オース・ネット事務局
	5	食の表示	消費者が多くの商品の中から自分のほしいものを選択するには、適正な表示が不可欠である。相次ぐ偽装表示発覚の中、真に消費者が求める表示について解説する。	5月27日		和田正江	主婦連合会
	6	遺伝子組み換え食品、植物から動物へ	遺伝子組み換え食品の範囲が広がり、作物から家畜や魚に拡大しつつある。すでに3倍の大きさの鮭などが開発されており、この動物改造がもたらす問題を環境、生命倫理、動物福祉などさまざまな側面から見ていく。	6月3日		天笠啓祐	遺伝子組換えいらない キャンペーン
	7	食の安全は確保されるかー市民の食品行政を監視する活動からー	食品の健康影響評価(リスク評価)は、食品安全委員会で行なわれている。安全性に消費者が疑問を持ったとき、その声は食品行政に反映できるのだろうか。消費者は安全評価と管理のあり方を監視する活動が求められている。	6月10日		山浦康明	NPO法人 日本消費者連盟
	8	国際的な食品の安全性確保のためのコミュニケーションの状況	コーデックス委員会の決議事項は、協同組合の事業活動はもとより、地球上の食や健康問題に直接影響を及ぼしています。国際的な食品の安全性確保のためのコミュニケーションの状況やシステムなどを講義し、食のリスクコミュニケーションのあり方や課題を解説します。	6月17日		鬼武一夫	日本生活協同組合連合 会 安全政策推進室
	9	消費者教育	消費者教育は、単に買い物上手だけでなく、主体的な判断力を持つ「経済市民」を育てるという点に重点を置くべきとの考えから進めてきた消費者教育の運動を紹介する。	6月24日		鈴木深雪	主婦連合会
	10	情報通信	インターネットという地球規模のネットワークが動き出し、新しい消費者問題が発生。ダイヤルQ2問題、公衆電話基本料の値上げ、発信電話番号表示制度の導入など、マルチメディア時代の進展に伴う消費者問題について解説する。	7月1日		石岡克俊	主婦連合会
	12	情報公開と個人情報	情報公開法及び個人情報保護法の制定運動を紹介し、両制度の持つ消費者にとつての意義と課題を解説する。	7月8日		三木由希子	NPO法人 情報公開ク リアリングハウス
	11	食品リサイクル法から環境と食の安全を考える	「食と農」、「安全と安心」、「環境保全型農業」。環境問題から都市型農業を考える。	7月15日		有田芳子	主婦連合会
	13	世界の水問題と地域の水環境	世界では5人に1人が安全な水を得ていない現状だが日本では世界からヴァーチャルウォーターをかき集めている上に、自国の水環境を悪化させている。この状況をどう変えていくのか提起したい。	7月22日		富山洋子	NPO法人 日本消費者連盟
	14	市民によるPRTRデータの有効活用法	国から公表されているPRTRデータをどのようにすれば、市民生活に活用できるのか、データの読み方を解説するとともに、有害化学物質削減ネットワーク(Tウォッチ)の活動を紹介し、環境中に排出されている化学物質の現状について共に考える。	7月29日		中地 重晴	環境監視研究所
	15	ごみ減量からグリーンコンシューマーへ	地球環境は悪化の一途をたどっている。持続可能な循環型社会を求めて、グリーンコンシューマー運動が始まった。大量生産・大量消費・大量廃棄だけでなく、大量リサイクルになりつつある現状とグリーンコンシューマー運動の紹介をする。	8月5日		佐野真理子	主婦連合会